

平和への誓い新たに

6月25日、沖縄戦で亡くなった恩納村出身戦没者を追悼する『第74回恩納村戦没者慰霊祭』が村慰霊之塔で執り行われました。参列者は亡くなられた方たちを祀った慰霊之塔へ手を合わせ、戦没者を追悼しました。

式典では、長浜村長や島袋裕介恩納村議会議員、比嘉豊林遺族代表の追悼のことばに続き、児童生徒が平和へのメッセージを読み上げました。



うんな中学校代表(渡慶次 瑤主)

今から81年前、美しい自然と豊かな文化を育んでいたここ沖縄で私たちが絶対に忘れてはいけない胸が痛むような出来事がありました。沖縄戦です。今、私たちは学校へ行き授業を受け、友達と話して自由なことができる日々を過ごしています。81年前のあの日はどうだったでしょうか。友達や家族と離ればなれになり、いつ戦争が終わるかもわからず不安な日々を過ごしていたと思います。そのような時代の中で私の祖父は戦争が終わる2か月前に生まれたそうです。当時、生まれたばかりの祖父は周りから戦争のおろかさや悲しみ、苦しさを聞いて育ったそうです。私は祖父の話をして聞いて戦争の歴史を忘れずに受け継いでいくことの大切さを感じました。

戦後81年、平和になった日本ですが世界に目を向けると今でも戦争をしている国があります。もう昔のことだから、と戦争という辛い歴史に目を背けるのではなく過去の過ちを今にどう生かしていくか。それが平和への道の一つなのではないでしょうか。そして、戦争を知らない新しい世代に沖縄戦の悲惨さを語り継いでいくことが私たちの使命だと思います。そのために平和の礎や平和祈念資料館などに足を運び、沖縄戦とはどんな戦争だったのか、平和とは何かを学んでいきたいです。慰霊の日に戦争で亡くなられた方々へ哀悼の意を表すとともに、平和な未来をつくっていくことの大切さを改めて考えたいです。そして、今ある平和に感謝し、これからも平和を大切に生きていくことを誓います。



安富祖小学校代表(伊佐 元斗)

僕は、五年生のころ、第二護郷隊というところに行きました。そこには沖縄戦で亡くなった方たちの名前が書かれていました。戦争ってこんなに怖いんだと思いました。しばらくして、戦争を体験した人の話を聞きました。その人が言っていた言葉は、自分の友達が自分の目の前で亡くなったと言っていました。

それを聞いた時、自分の友達が目の前で亡くなるなんて残こくだなと思いました。そして、その話を聞いて、僕たち若い人が戦争をしないようにどうしたらいいか考えるなど、その考えた事をいい方向に進めていけたらいいなと思いました。他には、恩納村の博物館に行って、戦争のことについて学習しました。その博物館は、戦争中の爆弾などがありました。その爆弾を見た時、これで人をあやめているんだ、とびっくりしました。僕たちが過ごしている今は、爆弾もなく、友達がすぐとなりにいる。僕はそれを当たり前だと考えていました。だけど戦争を体験した人の話や、博物館に行くとそれは違いました。僕は今感じている当たり前や戦争をなくして、これからも『当たり前』にしていきたいと思いました。



※児童生徒による平和メッセージは、随時掲載していきます。

恩納村戦没者芳名の刻銘を希望するご遺族の方へ

恩納村出身戦没者で、恩納村慰霊之塔に芳名の刻銘を希望する方は、福祉健康課へお問い合わせください。必ず、各自で村慰霊之塔に芳名が無い事を確認してからお問い合わせください。

お問い合わせ期限 令和8年9月30日(水)

お問い合わせ: 福祉健康課 ☎966-1207